

医療分野への影響危惧

光ファイバー網整備に差

気 仙

高速のインターネット通信が可能となる光ファイバー網敷設が進む気仙だが、地域によって整備状況に差も出ている。こうした中、医療分野では光回線を前提とした技術革新も進んでおり、未敷設地域の医療関係者や住民らは立ち後れを危惧している。

光回線による高速インターネット通信を利用する場合、地域に光ファイバー網が敷設されていることが条件となる。

住田町のように自治体独自で敷設する場合を除くと、県内で敷設整備を進めているのはNTT東日本。しかし、採算性の問題などで同社の事業展開が困難な地域では敷設が進まないケースがあり、気仙でもデジタルディバイド(情報格差)の

発生が危惧されている。大船渡市末崎町もこうした「通信後進地域」に甘んじている場所の一つ。同町は船河原、石浜地区を除く大部分が光ファイバー網未敷設地域で、光回線によるネット通信を利用できない。光ファイバーによらない高速のADSL回線は利用できるが、NTT局舎から離れた地域では通信速度が遅くなるなど弱点が多い。

光回線未敷設の不利は、住民がネット利用のスピードで感じる不便さにとどまらない。同町細浦で滝田医院を経営する滝田院長(49)は、「医療のIT化の流れを考えた場合、光ファイバー網が敷設されなければ、将来的に業務が立ち行かなくなる」と危機感を募らせる。

医療業界では昨年、レセプト(診療報酬明細書)の提出が、紙から電子ファイルに原則義務化された。カルテを電子化し、外部サーバーに集約して医療機関が共有するシステムも、地域によっては導入が進んでおり、今後さらに加速する可能性もある。

しかしこうしたシステムは、データ容量が莫大な電子カルテも頻りにやりとりすることから、光回線の利用が一般的。滝田院長が検討したシステムも、業者が光回線を前提としており、導入不可能だったという。

広い県土に医療機関が点在する本県では、患者の物理的移動に困難が伴い、今後さらに



光ファイバー網が未敷設の末崎町細浦地区II大船渡市

通信基盤整備推進交付金。民間事業者が負担している敷設工事費用の3分の1交付などの措置がある。

同町では末崎町振興会(村上清一会長)が交付金の活用などを含め、市に敷設への陳情を行ってきた。しかし「NTT東日本へ働きかけているが、整備計画は未定とのこと。交付金は国から募集がなく、今後の状況はまだ聞こえてこない」(同市)という。同会は「有利な補助制度を研究し、一刻も早く敷設を」と強調する。

同市では現在、末崎町のほかに、日頃市町、三陸町綾里の大部分が光ファイバー未敷設。

陸前高田市でも小友町、広田町、矢作町が全域未敷設で、横田町、米崎町などは一部にとどまっている。

高度化した病診連携や遠隔医療が求められるのは確実。その場合、即時に医療情報を交換、共有できるシステムが求められる。滝田院長は「都会よりも、

地方だからこそ光ファイバーが必要とされるのでは」と訴える。市内では昨年12月の市議会で、三陸町越喜来、吉浜両地区への光ファイバー網整備事業費3億800万円の予算がついた。市が財源として見込んだのは、総務省による地域情報